

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

測定年度	令和6年度	学校コード	F133310109554	設置等組織名	生物地球学部（恐竜学科）、通信教育部情報理工学部（情報理工学科）
大学名	岡山理科大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	岡山	事業計画名	岡山理科大学における「新しい未来を切り拓く探究心」あふれるデジタル人材育成事業」

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	(生物地球学部恐竜学科) 2-① 令和6年4月～ 生物地球学部恐竜学科実習室改修 2-② 令和6年4月～ 生物地球学部恐竜学科教育研究機器整備 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 2-③ 令和6年8月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科85号館5階改修 2-④ 令和6年4月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科LMSの導入 2-⑤ 令和6年9月～ 通信教育部情報理工学部情報理工学科mylogサーバの導入	(生物地球学部恐竜学科) 2-① 令和6年12月～令和7年3月 生物地球学部恐竜学科実習室改修 2-② 令和7年3月 生物地球学部恐竜学科教育研究機器整備 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 2-③ 令和6年8月～9月 通信教育部情報理工学部情報理工学科85号館5階改修 2-④ 令和6年11月 通信教育部情報理工学部情報理工学科LMSの導入 2-⑤ 令和7年1月 通信教育部情報理工学部情報理工学科mylogサーバの導入	令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和7年度	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和7年4月～ 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和7年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和7年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和7年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和7年4月～ 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用 3-⑥ 令和7年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑧ 令和7年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び2年次生向けコンテンツ作成 3-⑨ 令和7年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和7年4月～令和8年3月 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和7年11月～12月 モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和7年4月～令和8年3月 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和7年11月～12月 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和7年7月～令和8年3月 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用 3-⑥ 令和7年8月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑧ 令和7年4月～令和8年3月 LMSの利用による円滑な授業運営及び2年次生向けコンテンツ作成 3-⑨ 令和7年4月～令和8年3月 LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持	令和7年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和8年度	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和8年4月～ 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和8年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和8年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和8年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和8年4月～令和9年3月 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用 3-⑥ 令和8年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑦ 令和8年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑧ 令和8年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び3年次生向けコンテンツ作成 3-⑨ 令和8年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和8年4月～令和9年3月 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和8年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和8年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和8年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和8年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑥ 令和8年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑦ 令和8年4月～ 専門実習の開発と、化石標本の適切な情報収集と取得	令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和9年4月～ 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和9年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和9年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和9年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和9年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑥ 令和9年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑦ 令和9年4月～ 専門実習の開発と、化石標本の適切な情報収集と取得 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑧ 令和9年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営及び4年次生向けコンテンツ作成 3-⑨ 令和9年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和9年4月～令和10年3月 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和9年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和9年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和9年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和9年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑥ 令和9年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑦ 令和9年4月～ 専門実習の開発と、化石標本の適切な情報収集と取得 3-⑧ 令和10年4月～ 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用	令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和10年4月～ 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和10年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和10年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和10年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和10年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑥ 令和10年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑦ 令和10年4月～ 専門実習の開発と、化石標本の適切な情報収集と取得 3-⑧ 令和10年4月～ 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用 3-⑨ 令和10年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 (通信教育部情報理工学部情報理工学科) 3-⑧ 令和10年4月～ LMSの利用による円滑な授業運営 3-⑨ 令和10年4月～ LMSの保守（障害対応、システムのアップデート等）による円滑な授業運営の維持	(生物地球学部恐竜学科) 3-① 令和10年4月～令和11年3月 講義や実習へのデジタル情報活用と充実を目的としたモンゴル産恐竜化石の野外調査・収集・デジタルデータ保存 3-② 令和10年4月～ モンゴル人研究者招聘 3-③ 令和10年4月～ 生化学的な講義・実習へ活用される化石標本の選定に関する生化学的実験 3-④ 令和10年4月～ 国際的かつ最新の化石研究を取り入れた国内外化石研究者招聘 3-⑤ 令和10年4月～ 最新情報の学科/ウェブサイト及びホームページの構築と運用 3-⑥ 令和10年4月～ 複数国に保存される化石標本の形態情報、デジタル化された形態情報による多様化された情報収集 3-⑦ 令和10年4月～ 専門実習の開発と、化石標本の適切な情報収集と取得 3-⑧ 令和10年4月～ 複雑で専門的な書籍業務担当の補助員の雇用	令和10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和6年3月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 設置認可申請予定 令和6年4月 生物地球学部恐竜学科 設置届出予定	令和6年3月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設認可申請 令和6年4月 生物地球学部恐竜学科 設置届出 令和6年6月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設認可補正申請 令和6年8月 通信教育部情報理工学部情報理工学科 開設認可		
定員減又は 学部等の廃止	令和6年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員に係る届出予定（入学生員120人 理学関係） 令和7年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員予定（入学生員120人 理学関係） 令和6年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出予定（入学生員60人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出予定（入学生員60人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 教育学部中等教育学科10人減員に係る届出予定（入学生員50人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部中等教育学科10人減員予定（入学生員50人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 理学部臨床生命科学科50人募集停止に係る届出予定（理学関係） 令和10年4月 理学部臨床生命科学科50人廃止予定（理学関係） 令和6年4月 工学部生命医療工学科25人募集停止に係る届出予定（工学関係） 令和10年4月 工学部生命医療工学科25人廃止予定（工学関係）	令和6年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員に係る届出（入学生員120人 理学関係） 令和7年4月 生物地球学部生物地球学科20人減員（入学生員120人 理学関係） 令和6年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出（入学生員60人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部初等教育学科10人減員に係る届出（入学生員60人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 教育学部中等教育学科10人減員に係る届出（入学生員50人 教育学・保育学関係） 令和7年4月 教育学部中等教育学科10人減員（入学生員50人 教育学・保育学関係） 令和6年4月 理学部臨床生命科学科50人募集停止に係る届出（理学関係） 令和10年4月 理学部臨床生命科学科50人廃止予定（理学関係） 令和6年4月 工学部生命医療工学科25人募集停止に係る届出（工学関係） 令和10年4月 工学部生命医療工学科25人廃止予定（工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- i) 学生募集停止中の大学
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、ブルダウんで選択してください。（ブルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。
- 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- 入学定員が20名以上増加する計画であること。
- 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。
- フェーズ3の助成期間終了時まで、に、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。
- 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、令和7年度 の取組の状況についてブルダウんで選択してください。（ブルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をブルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェックa.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェックb.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☐ チェックc.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
（恐竜学科） 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を通して、株式会社ウエスコや西谷技術コンサルタント株式会社より技術者を講師として招き、自然・環境・生物多様性の保全などの分野における各種業務や恐竜研究に係る知識や技術との関連性、業務遂行に必要な技術及び知識などについての指導を実施する予定である。また、医療従事者（医師、歯科医師、臨床検査技師等）や基礎医学の研究者を講師として招き、当該分野のほか製薬系・化粧品、食品などの医学や生活に関連した業界の企業研究についての指導も計画している。また、自治体と連携し、地方の博物館等における各種業務や社会教育活動について、「恐竜学博物館演習」や「恐竜学博物館実習」、「モンゴル発掘エクスカーション」を通して、古生物学研究の成果の社会への還元といったPBL型の課題を設定し、恐竜学博物館と連携することで、学生自らが課題を発見し解決する機会を創出する。	（恐竜学科） 申請時に計画した「企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施」については、令和7年度時点では対象となる「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「恐竜学博物館演習」、「恐竜学博物館実習」、「モンゴル発掘エクスカーション」が未開講であるため、正課科目としての本格的な実施には至っていない。一方で、令和9年度以降の開講に向けて、企業・博物館・研究機関等との連携体制の整備および教育内容の検討を進めた。企業との意見交換では、各分野における人材ニーズの把握に加え、学生の就職活動支援および実践的教育への接続を目的として、インターンシップの実施の可能性についても検討を行った。今後は、企業の実務上の課題を題材として、学生が情報収集、課題分析、成果物作成、提案を行う課題解決型インターンシップとして設計し、卒業研究や専門実習と連動したPBL型教育へ発展させることを目指す。博物館・研究機関との連携については、モンゴル科学アカデミーおよび兵庫県立人と自然の博物館より研究員を招聘し、セミナーを開催した。さらに、岡山理科大学恐竜学博物館を活用した正課外活動として「博物館ボランティア」を組織し、標本に関する補助的業務や展示解説を通じて、申請時に計画した「企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施」については、令和7年度時点では対象となる「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「恐竜学博物館演習」、「恐竜学博物館実習」、「モンゴル発掘エクスカーション」が未開講であるため、正課科目としての本格的な実施には至っていない。一方で、令和9年度以降の開講に向けて、企業・博物館・研究機関等との連携体制の整備および教育内容の検討を進めた。企業との意見交換では、地質・建設コンサルタント5社、建設業1社、医療用医薬品、機器・試薬卸売業1社、人材情報サービス業3社、製造業1社、小売業1社の採用担当者と面談を行い、各分野における人材ニーズの把握に加え、学生の就職活動支援および実践的教育への接続を目的として、インターンシップの実施可能性についても検討を行った。今後は、企業の実務上の課題を題材として、学生が情報収集、課題分析、成果物作成、提案を行う課題解決型インターンシップとして設計し、卒業研究や専門実習と連動したPBL型教育へ発展させることを目指す。博物館・研究機関との連携については、兵庫県立人と自然の博物館より研究員を招聘し、「恐竜学科公開FD：篠山層群の化石と地方博物館に求められる人材」を開催した。また、岡山理科大学恐竜学博物館を活用した正課外活動として「博物館ボランティア」を組織し、標本に関する補助的業務や展示解説を通じて、今後の「恐竜学博物館演習」および「恐竜学博物館実習」に接続する教育基盤を整備した。海外研究機関との連携については、モンゴル科学アカデミー-古生物学研究所と「共同古生物学研究・教育の相互協力に関する協定書」および「調査費書」を新たに締結し、モンゴルにおける恐竜研究および古生物学教育を共同で推進する体制を確認した。また、同研究所の研究員1名を岡山理科大学に招聘し、恐竜学科の学生を対象とした特別セミナーを実施した。これらの取組は、令和9年度以降に開講予定の「モンゴル発掘エクスカーション」の教育内容および現地連携体制の整備につながるものである。以上のように、令和7年度は、申請時に計画したPBL型科目の本格実施に向けて、企業、博物館、研究機関、海外連携機関との協議および教育体制の整備を進めた。今後は、これらの連携を正課教育へ接続し、学生が実社会の課題を理解し、自ら課題を発見・解決するPBL型教育の実施につなげていく。	
（情報理工学科） 複数の企業と協力関係を構築し、企業の技術者を非常勤講師として招き特色のある専門教育を実施する計画である。具体的な企業名及び開講科目を次に示す。 日本IBM株式会社：「情報セキュリティ論」（生成AI論）（2科目） 株式会社トマト銀行：「簿記基礎」「簿記原理」「ファイナルチャレンジ」「財務諸表論」（4科目） RSK山陽放送株式会社：「映像ストーリー制作論」「映像制作技術論」（2科目） Ainy合同会社：「キャラクターデザイン」「アニメーションデザイン」「メディアアート」（3科目）	（情報理工学科） 複数の企業と協力関係を構築し、企業の技術者を非常勤講師として招き特色のある専門教育を実施する計画について、前年度に引き続き連携企業との科目整備および授業動画の制作を進めた。RSK山陽放送株式会社および株式会社トマト銀行とは、具体的な授業内容の打ち合わせを重ね、順次授業動画の制作を進めている。Ainy合同会社および一般財団法人海備ハッピーライフとは講師派遣等の契約を継続し、所定の科目を配信・公開した。また、将来的な開講を予定している日本IBM株式会社とは、今年度さらに2回の打ち合わせを行い、授業内容の方針を決定した。さらに、教育内容をより充実させるため、新たにキヤノンITソリューションズ株式会社および株式会社アートテレビどは2社との連携を追加した。キヤノンITソリューションズ株式会社とは「インターネット論」の動画制作に着手し、株式会社アートテレビどは「メディアアトラ」を配信した。具体的な企業名、開講科目目及び公開状況を次に示す。 日本IBM株式会社：「情報セキュリティ論」（未開講）、「生成AI論」（未開講） 株式会社トマト銀行：「ファイナルチャレンジ」（制作中）、「財務諸表論」（未開講） RSK山陽放送株式会社：「映像ストーリー制作論」（制作中）、「映像制作技術論」（未開講） Ainy合同会社：「キャラクターデザイン」（公開演）、「アニメーションデザイン」（公開演）、「メディアアート」（未開講） 一般財団法人海備ハッピーライフ：「簿記基礎」（公開演）、「簿記原理」（公開演） キヤノンITソリューションズ株式会社：「インターネット論」（制作中） 株式会社アートテレビど：「メディアアトラ」（公開演） 以上、当初計画を基礎としつつ、連携企業を拡大しながら計画どおり企業と連携した科目の整備を進めている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェックa.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェックb.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェックc.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェックd.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☒ チェックe.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
（恐竜学科） a. 入学者選抜のうち総合型および学校推薦型選抜では、受験者の多様な学びをそれぞれ適切に評価する。また総合型選抜では、学科独自の事前課題を設け、一般選抜とは異なる受験生の学びの多様性を評価する。一般選抜では、国語のみならず、新しい学習指導要領となる地理歴史（地理総合や歴史総合）といった文系科目をも含む多様な受験科目を設定する。またオープンキャンパスの場を活用し、入学希望者の選択科目について情報収集を行い、恐竜学科の受験制度の普及と改善に努める。また、必要に応じて教育関連企業を交え、入試動向や受験生の受験科目ニーズの把握を試みる。 c. 恐竜学に関する教育研究活動を、周辺地域の小・中学校における出張講義や恐竜学博物館における講演会等で紹介し、科学への興味・関心の喚起を促す。また、近隣の初等中等教育から総合的な学習の時間を利用した訪問や中学校職場体験について恐竜学博物館を通して積極的に受け入れる。さらに、岡山理科大学附属高校とは高大連携事業の一環として、恐竜学科の持つ教育研究コンテンツを体験する機会を充実させ、潜在的な理系人材の確保を図る。 e. 本大学および本学園が設置する大学の留学生別科留学生に加え、一般の国費・私費留学生を対象に広く英語による情報発信を行う。全の恐竜学科教員は、海外研究機関との共同研究の実績を有している。また、3名の教員は海外留学を経験しているため、学修や生活における留学生との適切なコミュニケーションと指導方法の確立が期待できる。	（恐竜学科） a. 令和7年度は、入学者選抜の実施状況および入学後の学修状況を踏まえ、社会人入学者選抜における受験科目の見直しを行った。具体的には、これまで選抜科目に含まれていた国語を社会人入学者選抜の選抜科目から除外し、入学後に必要となる自然科学分野の基礎的能力をより適切に評価できる選抜科目となるよう改善を図った。 c. 地域の初等中等教育段階の学校や社会教育機関との連携については、恐竜学博物館および学科教員の教育研究活動を活用し、恐竜学・古生物学を通して自然科学への興味・関心を喚起する取組を継続した。具体的な学校との連携としては、岡山理科大学附属高等学校との高大連携教育「サイエンスワーク1・2・3」において、恐竜学科の教育研究内容に関わる学修機会を提供し、高校生が古生物学・地質学・自然科学に触れる機会を設けた。また、恐竜学博物館における講演を12件、学外機関からの依頼による講演を29件実施した。学外での講演には、岸和田自然資料館、奄美博物館、岡山市立北公民館、岡山コンベンションセンター、真庭市、給良市等における講演が含まれる。これは、個別の学校との連携に限らず、自治体、博物館、公民館等の社会教育機関を通じて、小学生・中学生・高校生およびその保護者に対し、恐竜学・古生物学を入口とした自然科学への興味・関心を喚起する取組として実施したものである。さらに、県内外の高等学校向けに出張講義を5件、校内模擬授業を5件実施し、高校生に対して恐竜学科の教育研究内容や古生物学・地質学の学びを紹介する機会を設けた。今後も、岡山理科大学附属高等学校との高大連携教育を継続するとともに、地域の学校、自治体、博物館、公民館等との連携を通じて、初等中等教育段階の児童・生徒に自然科学への関心を高める機会を提供していく。 e. 留学生の受入れ強化に向けた取組については、学科および教員によるウェブページやSNS等を通じた情報発信を継続した。その結果、修士課程・博士課程への進学に関して海外から2件の問い合わせがあった。一方で、学部段階での留学生志願者は限定的であり、令和7年度入試においては推薦入試へのエントリーが1件あったものの、最終的には受験には至らなかった。このことから、大学院段階の研究志向をもつ海外学生に対しては一定の関心を喚起できている一方、学部段階での留学生確保については、情報発信の方法、入試制度の周知、学修支援体制の説明等に課題が残ることが明らかとなった。今後は、英語による情報発信の充実や、海外からの問い合わせ内容の分析を通じて、学部留学生の受入れに向けた取組を検討していく。	
（情報理工学科） d. 新設する情報理工学科において募集対象として最も高い比重を占めると予想されるのは、学生確保に関するアンケート調査において高い比率で入学の意思表示を示した社会人である。特に本学科では、全科目オンラインのメディア授業、スクーリングもオンラインでの実施で済ませ、初年度納入金は入学金を含めて38万円で安価、など特色を有している。これらの特徴は、リクルーティングを目的とした進路選択しやすとする社会人にも、本学科を受験していくうえでメリットと考ええる。ネット広告を活用し、こうした情報を通信欄へ。そして情報分野に関心を持つ層に発信していく。また企業側からは、高卒者に対して、情報に関する知識や技術を学位と併せて取得しやすとする従業員を応援したいという声も聞かえる。こうした企業から従業員への情報提供は社会人受け入れにおいて効果的と考えられるため、賛同を得られる企業を開拓していきたい。	（情報理工学科） d. 令和6年度に引き続き通信制大学や情報分野に関心を持つ層をターゲットに広報活動を行ったが、社会人学生の志願者数が伸び悩んだ。そのため、入試制度改革に着手し、社会人が時期を問わず出願できる環境を構築するため、秋入学制度の導入を機関決定した。令和8年9月入学から募集を開始する。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	岡山理科大学
-------------	-------	-----	--------

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和6年度	実施状況報告書留意事項	○R 7 年度収容定員充足率が 0.69（通信教育部情報理工学部情報理工学科）となっている。収容定員未充足の改善に努めること。	<p>本学科を設置する際、学生確保の見通し調査（高校生対象、社会人対象）の結果から、通信教育部は社会人からのニーズが高いことを認識していた。また、他大学の通信教育部における在学生の年齢構成も参考に、入学生の多くは社会人学生が占めるであろうと、本事業への申請時点では予測し、募集活動を展開した。しかし、実際には、令和 7 年度入学者137名のうち社会人選抜を経た入学者は31名と全体の27%に過ぎず、逆に22歳までの入学生は96名で全体の70%を占める結果となっており、ターゲットとすべき年齢層に見誤りがあったことが明らかになった。また、認可の時期が令和 6 年 8 月にずれこんだため、募集活動が出遅れ、本学通信教育部を世間に認知してもらう機会が限定されたことや、オウンドメディアの活用が不十分であったことも定員未充足の要因であると考えている。</p> <p>これらの分析を基に検討し、社会人学生を確保するための取り組みも引き続き強化するが、若い年齢層をターゲットとする通信教育部の認知度を高める広報戦略の展開により力を注ぐことを方針とすることとした。この方針に従い、定員を充足するための方策として次の取り組みを実施している。</p> <p>1．若い年齢層の学生を確保するために、 (1)募集定員200名のうち社会人選抜の募集比率を170／200から100／200に減少させることにより、高校生、大学生や職歴の浅い社会人の募集比率を高める。 (2)高校等への資料送付件数を昨年度より1.4倍増加させ、通信教育部の認知度を高める。</p> <p>2．社会人学生を確保するために、 (1)本学キャリア支援センターと連携し、企業に対して通信教育を活用するリカレント教育の組織的な推進を提案する。 (2)令和 8 年度入試において12月中旬から 1 月中旬、3 月下旬から 4 月中旬にも社会人選抜を実施する。</p> <p>3．より多くの学生を確保するために、 (1)認知度を高めるためのオンライン説明会を重点イベントと位置づけ、参加者数の増加目標値を設定した上で実施する。 (2)本学ホームページの構成を見直し、通信教育部への受験を考えている人たちへの利便性を図る。</p> <p>これらの方策の成果として、4 月から 9 月までに実施したオンライン説明会の参加組数が昨年度38組から今年度96組に増加している。これは昨年度比253%であり、年度当初に掲げた目標値である145%を大きく上回っている。</p> <p>引き続きこれらの方策に取り組み、本学通信教育部に対する認知度を高め、令和 8 年度入試において定員確保することを目指す。</p>

大学名	岡山理科大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

[illegible]

大学名	岡山理科大学
-----	--------

本事業対象となる学部等の個数	2
----------------	---

1.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	既存学部における学科の新設
学部学科名	生物地球学部恐竜学科（理学関係）

[illegible]

大学名	岡山理科大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	岡山理科大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1815	2015	2015																
		入学者数	人	1438	1672	1739																
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,815	2,015	2,015																
		入学者数(B)	人	1,438	1,672	1,739																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.79	0.83	0.86																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7550	7750	7960																
		編入学定員	人	10	10	20																
		在籍者数(D)	人	6409	6535	6664																
		編入学者数	人	6	5	11																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.85	0.84	0.84																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			申請－5年	申請－4年	申請－3年	申請－2年	申請－1年	申請	選定	開設											
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	290,030	375,015	376,771	427,745	425,064	448,222	475,418	410,282											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額	千円	392,283
本事業による助成金の額(F)	千円	239,657
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	398,275

特記事項